

## 現地情報

### 新品種「但馬1号（なしおとめ）」による早生ナシ産地の育成

但馬地域では、2015年から兵庫県育成品種「但馬1号（なしおとめ）」の導入を開始した。普及センターは、高接ぎや改植の推進による生産拡大と、北部農業技術センターと連携して、栽培技術定着に向けた講習会を行っている。2018年には本格販売を行い、消費者からは高い評価を得た。

#### 取組の背景

但馬地域のナシ品種の8割は「二十世紀」系の中生品種であり、収穫期の労力分散が必要である。そこで、2015年から県育成の早生品種「但馬1号」の導入を開始した。

#### 取組内容と成果

##### (1) 生産拡大・栽培技術普及に向けて

2015年から3年間、5戸の農家が「但馬1号」の現地実証を行った。2017年からは県民局事業を活用し、高接ぎにかかる経費補助を行い、生産者の「但馬1号」への品種更新を支援し、高接ぎ数も増加している（図）。さらに、2019年には、苗木による改植が始まった。

栽培技術定着に向けて、普及センターは、北部農業技術センターと連携して、講習会（周年高接ぎ、夏季誘引、収穫、<sup>せん</sup>剪定、ポット苗育成）を開催している。また、収穫適期判断のツールとしてカラーチャートを作成した。

現在では、「但馬1号」導入農家は33戸となり、毎年栽培面積が増えつつある。

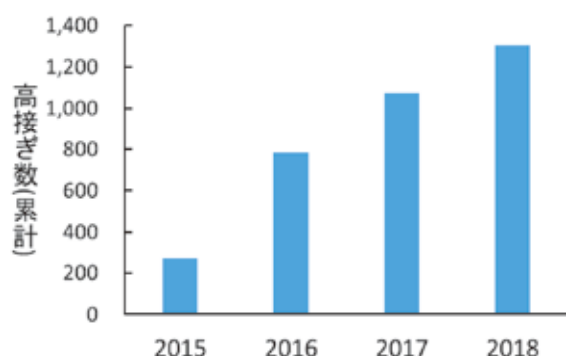


図 高接ぎ数の推移

##### (2) 新たな特産品づくり

2016年には、全国1,345件の応募の中から「但馬1号」の愛称が「なしおとめ」に決定し、J A たじまが商標登録を行った。また、かわいらしいロゴマークも作成した。

2018年8月に、「なしおとめ」はジェイアール京都伊勢丹やファーマーズマーケットたじままで本格販売を行った。店頭で試食を行い、消費者から、「みずみずしくておいしい」といった高い評価を得ている。

#### 今後の方針

2019年の生産量は約1.5 t とまだまだ少ないため、改植に加えて、新たに平地での新植を進めていく。

「なしおとめ」のファンを増やすため、試食販売PRは今後も継続する。

今後も、これらの取組を生産者、関係機関一体となって進めていきたい。

古川 祥大（新温泉農業改良普及センター）

（問い合わせ先 電話：0796-82-1161）



写真 本格販売を迎えた「なしおとめ」とロゴマーク

ひょうごの農林水産技術 No.208 (2020.2) ※本内容は、当センターホームページにも掲載

令和2年2月28日

兵庫県立農林水産技術総合センター (0790) 47-2408